

編集後記

流域圏学会誌の第3巻1号をお届けします。今年度より、編集・出版委員会委員長を担当しております高知高専の岡田です。慣れない作業に手間取っておりますが、会員のみなさまに今まで以上に学会誌を読んでいただけるよう取り組んでまいります。

はじめに、本学会の発展に多大な貢献をいただいた福留脩文氏(平成25年12月10日)、大年邦雄高知大学教授(平成26年1月27日)が逝去されました。両氏に対し、謹んでご冥福をお祈りいたします。さて、本号第3巻1号から流域圏学会誌は冊子体からWeb版と大きく変わりました。本学会でも協力してきました流域圏にダウンスケールした気候変動シナリオと高知県の適応策(RECCA-Kochi)プロジェクトの成果3編を含む原著論文4編が掲載されています。また、大西文秀氏の〈総説〉日本の流域圏におけるヒトと自然の関係では、環境容量を「ヒトの活動の集積」と「自然が持つ包容力」の関係を示す指標とし、GISを用いてそれらを見える化することで、流域内の大都市が流域の環境容量に影響を与えていること等、それぞれの流域を見る新たな視点について解説されています。

今後も流域圏学会誌を充実させていく上で、会員の皆様には本学会にふさわしい研究成果や解説、総説等の積極的な投稿をお願いいたします。

(編集・出版委員会 委員長 岡田将治)

書評・新刊紹介について

流域圏学会誌の「書評」、「新刊紹介」では、会員のみなさまが執筆・出版した書籍を積極的に取り上げるようにしています。

会員のみなさまが書籍を出版されたときは、すみやかに編集・出版委員会[edit@ryuikiken.org]に書誌情報(書名、著者名、出版社名、ISBN)をお寄せくださいますようお願い申し上げます。情報が寄せられましたら、出版・編集委員会で書評あるいは新刊紹介で取り上げるよう検討いたします。可能であれば、書籍の実物を1冊寄贈していただくと幸いです。

なお、流域圏学会誌の「書評」、「新刊紹介」に掲載した書籍(会員が著者となっている者に限ります)は、特段の手続きを行わなくても流域圏学会出版学術賞の選考対象となります。